

祝賀

日本コンクリート工学会賞功労賞を受賞して

Receiving Meritorius Deed Prize from the Japan Concrete Institute 2023

理工学部 都市環境デザイン学科 横関 康祐

公益社団法人日本コンクリート工学会より 2023 年度日本コンクリート工学会賞功労賞をいただきました。関係者への感謝の意味を込めて日本コンクリート工学会の活動について紹介させていただきます。

日本コンクリート工学会は、1961年にアメリカコンクリート学会 ACI の第 6 番目の支部として「日本 ACI」が設置され、百数十名の会員の活動がはじまりとされています。1963年には日本建築学会と土木学会が、わが国のコンクリート工学関係者を統一すべく「コンクリート連合委員会 JCC」を組織しました。この「日本 ACI」と「JCC」の統一組織として、1965年に「日本コンクリート会議」が誕生します。これが、現在の「日本コンクリート工学会」の前身となります。初代会長は東京大学名誉教授武藤清博士、副会長が東京大学教授國分正胤博士であり、この時の会員数は 842 名でした。その後、1975年に社団法人「日本コンクリート工学協会」と会名が変更され、さらなる発展が遂げられました。現在の「日本コンクリート工学会 (JCI)」は 2011年に公益社団法人となり、名実ともに学会として、産学官連携の拠点として大きな働きをし続けています。現在の会員数は約 6500 名となり、学界、研究機関はもとより、コンクリート関係の事業に携わっておられる方々によるコンクリート専門の学術団体として国内外ともに確固たる地位を築くに至っています。

JCI は、通常の学会と同様に、会誌「コンクリート工学」を毎月発行し、学術論文として、「コンクリート工学論文集」、筆者も編集委員を務めている英文論文集 ACT (Journal of Advanced Concrete Technology) をオンライン配信しています。また、コンクリート技術者に幅広く活用されている、「コンクリート技術の要点」、「コンクリート診断技術」、「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」、「マスコンクリートのひび割れ指針」など実務で必携の図書、指針類や JIS 原

案の作成を行っています。コンクリート技士・主任技士、コンクリート診断士は、実務で必携の資格であり、総勢 75 000 人ほどの登録者を輩出しています。

学術講演会は、日本のコンクリートに関わる研究者、技術者が一同に会する「コンクリート工学年次大会」を毎年開催するとともに、各種のシンポジウムや講演会、工事現場の見学会などのイベントを本部、支部活動として活発に行っています。

日本コンクリート工学会賞としては、毎年、論文賞、技術賞、奨励賞、作品賞、および功労賞が授与されています。筆者は、1996年に技術賞、2003年に論文賞をいただきました。功労賞は、東洋大学としては 2010年に福手教授（当時）が受賞しております。

コンクリートは、インフラ・建築構造物に不可欠な材料であり、構造形式です。コンクリートがなければ我々の生活は成り立たないと言っても過言ではないと思います。昨今、コンクリート分野では、インフラの老朽化、防災や環境問題など様々な課題があり、コンクリートに携わっている方々は真摯に、かつ志をもって社会に貢献できるよう日々努力を続けています。改めて、筆者もその一端を担えるよう教育、研究に力を注いでいきたいと思っています。



参考文献

1) 福手勤：日本コンクリート工学協会功績賞を受賞して、工業技術 東洋大学工業技術研究所報告、32 号、pp. 3～4、2010